

# ペン、紙の涙

2015年・SEP

## 序

夜。窓の向こうに満月。暗い教室（風？）の場所で、茜が机に座り、付箋紙に油性ペンで片端から何かを書きながっている。遠くに、角の生えた四足獣を従えた少女・桜が月を見上げている。

茜 何で…？何で誰も来ないのよお…？

最後に、一段と大きい紙を床に広げ、でっかく「バカ！」と書きなぐる。

茜 バカヤロー！月なんて、お月様なんて、大っキライどわあー！

書いた紙を壁にバン！と乱暴に貼り付けると、茜、走り去る。ややあって、無人のはずの教室から黒い影一つ立ち上がり、いずこかへ消える。

暗転（てほどでもない短い暗転）

## 巻 言葉杖い師

明るい教室。教室と見せかけてよく見ると、紅白の垂れ幕、幟などで飾られていることがここにきてわかる。壁にダーツ（吹き矢）の的。床に金魚すくい（スーパールボールかなあ）のたらい。その脇で、キミが遊んでいる。ゆかりは吹き矢にチャレンジ中。背を向けて一人座る茜は、机に向かって変わらぬ何か書いている。

ゆかり （吹き矢を的に向かって吹く） あたーりー！

キミ あ、ポイ破けた…（ポイ）。

ゆかり 大事な道具で遊ぶのやめなさいよ。

キミ ゆかりだって遊んでんじやん。

ゆかり 吹き矢は何回でも使えるけど、ポイは破けたらそれっきりなのよ。

キミ 吹き矢だって、唾つくしい、バイ菌ついたら困るでしょ。

ゆかり 人を感染源みたく言うな！そんなの、拭けばいいでしょ、除菌ティッシュで。吹き矢だけに。

キミ うわあ、おやじギャグ…。いっぱいあるんだからいいじゃん。てか、そもそも

もそんなにお客さん来るのかなあ？あれ？

ゆかり （吹き矢をキミに向けて） 勿体ないからやめなって言ってるでしょ！

キミ ほほう、そうきたか。（どっかから取り出したオモチャの刀を構える） やって

みるがいい。ただし、私に飛び道具は通用しないぞ。

ゆかり どっからそんなもん出してきたのよ？

キミ 「キミちゃんのチャンバラ体験コーナー」です！

ゆかり （ぶっ）

キミ （すかつ）ぐわああああ！おのれ、不意打ちとは卑怯な…！（はたっ）

## 登場人物

松風 茜

道明寺 桜

鹿の子

塩釜 ゆかり

桃山 キミ

御手洗 団子

八ッ橋 夕子

ナゾの黒い影（バカヤロー）

**ゆかり** (キミの手から刀を奪い取り、おでこをこつんと叩く) いつまでもバカやってないで、ちったあ真面目に働けつての。

**キミ** あ、ゆかりがそれ言っちゃう？

**ゆかり** てゆーかさ…。(そおとと茜の背後に歩み寄り、刀を振りかぶり、打ち込む) スキありっ！

茜の腕がすつと動き、見向きもせず手にしたペン(は難しいから定規かなあ)で、ゆかりの刀を受け止める。

**キミ** (拍手) お見事！塚原ト伝だあ!!

**茜** 何？今忙しいんだけど。

**ゆかり** 茜、あんたいつまでもいじけてんじやないわよ。辛気くさいっての！

**茜** いじけてない！(と、振り向く茜の眼の下に、でっかい涙形の付箋が貼ってある)

**キミ** 説得力ゼロだよ…。

**ゆかり** だから、昨日は悪かったって、さつきからもう何度も言ったじやない。しようがないでしょ、塾だったんだから。

**茜** だったら先に言え。

**ゆかり** ホントは行くつもりだったんだよ！けど、家出ようと思ったたら、お袋にバレそうになっちゃってさ、で、しようがなくな…。

**キミ** え、何の話？

**ゆかり** そ、それはね…、

**茜** 昨日の準備の話。

**キミ** てことはもしかして、ゆかりも？(ゆかりの手を握り) 同志よ！良かったあ。

**茜** そうかそうか、私だけじゃなかったんだあ…！

**ゆかり** ちつとも良くなかない！

**キミ** いやあ、面目ない。それがね、あーそろそろ行かなきゃって時に、急に調子よくなって、なんかボスマで倒せそうな勢いだったもんで、つい…。ところが

そいつが、思ったよりかたくてさ、ちつとも死なないわけ。ゲームかよ。こっちは現実なのに？

**キミ** ごめんねえ。でも、そうかそうか、ゆかりもかあ。なあんだ、心配して損しちゃったあ…。

**ゆかり** そら、茜がいじけるわけだわ。

**茜** 他人事みたいに言わないの！

**ゆかり** 昨日のことは昨日のこと。だからって、祭りは待ってくれないんだから、い

**茜** い加減頭切り替えてさ、真面目に準備しようよ。

**キミ** (のぞきこみ、茜の机上に置かれた紙束から一枚引っこ抜く) どれどれ？、

何よこれ!!

**茜** だんご券。

**ゆかり** あんたこれ、全部手書きで作るつもりなの？こんなパソコンならすぐ終わるじやない！

**茜** 私は、手書きが好きなんです！一枚一枚心を込めて書きたいの！

**キミ** 手書きでもコピーでも、だんご食べられれば気にしないけどね。

**ゆかり** それがいじけてるって言うてるの！そんな手間のかかることしてたらいつまで経っても終わらないでしょ！大体ね、あんただって、遅れたりサボったり

することあるじやない！

**茜** 一昨日は、ちよつと、宿題が終わらなくて…。

**ゆかり** その前は!?

**茜** その日は、前からチェックしてた新商品の発売日で…。

**ゆかり** iフォン6か!?秋の数量限定スイーツかあ!?!んなもん並ばなきゃ買えないもんじやないでしょがこの文具オタクがあ!

**茜** 悪いと思ったから、後でちゃんと謝ったでしょ！こっちは昨日の今日だよ。

**キミ** まだシヨックから立ち直れてないだけ！

**キミ** まーまー、二人ともちよつと落ち着こうよ。

**茜** キミは黙ってて！

**キミ** …な、なんかさ、これ見てたらお腹空いてきちゃったなあ…。ちよつと休憩

**茜** しておやつにしない？おだんごとか…！

**茜** どこにそんなもんがあるの!?

**ゆかり** そう言えば、団子は何やってんのよ!?

**茜** めちゃくちゃ間の悪いことに、そこに、コンテナBOXを抱え、帽子を目深にかぶった団子が入ってる。

**団子** ちわーす！「和菓子の御手洗」でーす！ご注文の月見団子お届けに上がりましたあ！

**キミ** ほら来たあ！てか、団子だよね？

**ゆかり** 遅い！

**団子** やだなあ、違いますって。私はただの配達アルバイトです。そんな、お嬢

さんだなんて、勘弁してくださいよお…。

**茜** じゃあ団子はどこ行ったの!?

**団子** そりゃあ、お嬢さんは学校に行ってるに決まってる…。

**ゆかり** ここが学校だったの！そんなんでごまかせるわけないでしょ！(帽子をはぎ取る) どう見たってあんたが団子だろが！

**団子** バレてた…？

**キミ** バレない方がおかしいって。

**茜** 団子あんた、今何時だと思ってるの!?!昨日はどうしたのよ!?!

**団子** だから、なんか不穏な空気が漂ってるから、正体を隠した方が得策かなあと

思い、つい…。ごめんなさい！じゃ、商品はちゃんとお届けしたんで、あつしはこれにて。

**キミ** え、来たばかりなのにもう行っちゃうの？

**団子** だって、昨日からずっと店の仕込みにかり出されちゃっててさ、まだ終わらないんだわー。おまけに寝てないし…。とりあえず団子届けたってことで貢献したことにして。お願い！店の方が一段落したら、ちゃんと駆けつけるからさ！待ちなさいって！

**団子** あ、あとこれ、夕子に渡しといて！うちの売り上げかかっている大事なものだから、絶対なくさないでね！請求書。毎度、ありがとやんしたー！

団子、一枚の紙切れを壁にぺたつと貼り付けると、慌ただしく走り去る。

**茜** ったく、どいつもこいつも…。  
**ゆかり** 請求書、ねえ…。？とこで茜、何これ？

請求書を手取るゆかり。その壁に貼られた、何も書かれていない紙を発見。

**キミ** これ、あんたが貼ったの？

**茜** えー!?だって、何も書いてないし。こんなの私が貼るわけないよ。…!?

それは、昨夜茜が貼ったものなのだが、何故か白紙に変わっていたのだ。不思議そうに空白の張り紙を見つめる茜たち。その瞬間、正面の壁が割れ(たらしいなあ)、黒い影が躍りこんでくる。びっくりして飛び退いたりすっ転んだりする茜、ゆかり、キミ。そして、その黒い影を追って、一人の少女が飛び込んでくる。何となく和装。手には刀。道明寺 桜である。

**キミ** え、なになに？何がどうなってるの!?

**桜** 逃がすか!

**黒い影** (バカヤロー。以下、「バカ」と記す) バカ。捕まるかよ!

**桜** なめるな!バカって言った方が「バカ」なんだぞ!

**バカ** バカ。「バカって言った方がバカ」って言った方がバカだ!

**桜** にゃにおお!?「バカって言った方がバカって言った方がバカ」って言った方がなあ…!!

**茜** なんか、緊迫した展開と見せかけて、低次元な争いになってきた…。

**バカ** バカ。つきあってられるか!

**桜** 鹿の子、行ったぞ!

**鹿の子** 任せろ!

くるりと身を返して逃げようとするバカの前に、角の生えた鹿のような生き物が現れて退路をふさぐ。

**バカ** ちっ!

**ゆかり** ど、どうしよう、こっち来るよ…!

**鹿の子** 桜、まづいぞ!

**桜** お前たち、逃げろ!

**キミ・ゆかり** ぎゃあああああああ! (ここ悲鳴なら「おかあさん」でも何でもよし)

**茜** (がきつ) ……!!

振り下ろされるバカによる右手の鉤爪の一撃を、間一髪茜の定規が受け止める。鏢迫り合い。次第に押され、遂に押し倒される茜。そこへ、第一撃が襲う。

**桜** 危ない!

目を閉じる茜。慌てて、茜とバカの間には飛び込む桜。辛うじてバカの爪から茜を守り、そして。

**桜** おのれ!成敗してくれる!行くぞ(念をこめて抜刀する)唸れ、煉切!

桜の刀が空を一閃する。しばし静寂。茜たちが我に返ると、バカの姿は、また忽然と消えていた。

**鹿の子** どうやら、逃げたようだな…。

**桜** 小癪な…。(納刀する)が、次はこっちはゆかぬぞ。

**茜** 助かったあ…。てこと?

**ゆかり** てか、今の一体、何…?

**桜** 面倒をかけてすまぬ。お前たち、怪我はないか?

**茜** は、はい…。大丈夫です。

**桜** にしてもお主、なかなかやるではないか。が、生兵法は怪我のもとだ。無茶

はしないことじゃ。邪魔したな。鹿の子、行くぞ。

**鹿の子** がってん。

**キミ** かっこいい〜!

**茜** あ、待って。君の方こそ、怪我してるよ…。

**桜** 問題ない。かすり傷だ。

**茜** でも、血、出てるよ…。

**桜** なに!? (腕を見る) あー!馬鹿者!それを早く言わんか!いかん、水、水をくれ!か、鹿の子、あとあれだ、酒をもて!いや、酒じゃなくて、薬草

を早く…!このままでは腕一本切り落とさなくてはならなくなってしまう…!

**鹿の子** この人、渋いのかアホなのかようわからんキヤラだ。

**桜** あいにく桜が使い過ぎるから薬草は切らしておっての。

**キミ** なんだとお!?ちゃんと補充しておくよう申しつけておいたじゃろうが!

**茜** ほらあ、いいからそこ座って。手、出しなさい。

桜 な、何をするつもりだ!? 痛いのはやだからな。  
（ポケットから救急絆創膏、それもなるべく可愛い柄を取り出しながら）  
すぐ終わるから。（べたん）はい、おしまい。

茜 な、何だこれは!?  
何って、ただのばんそーこーだよ。大した傷じゃないから、それ貼っとけば大丈夫。血が止まるまでとつちや駄目だぞ。あ、それとね…。

桜 何をしている! よさんか!  
私は茜。あなたは? 名前教えて。  
桜じゃ。

茜 （ペンでばんそうこうの上に何か書く）桜かあ。いい名前だね。早く治るおまじない。できあがり（ぼちん!）

桜 いたつ! ちよつと待て! あー、何を書いておるのじゃ!? な、何だこれは!? ことつても消えぬではないかあ! 「おまじない」って、まさか貴様、妖術師か?

茜 まっさかあ。何それ? 私は、普通の中学生だよ。だってそれ、油性だもん。ちよつとしつこい性格の文具オタクの間違いだろ。

ゆかり ゆかりうるさい!  
キミ まーまーまー、なんか、助けてもらったみたいだし、お近づきの印に一杯ど

桜 うぞ。  
これはかたじけない。ちようど喉が渴いておつてな…。（ぶつ）な、何だこれはあ! 口の中がパチパチするではないかあ! さては、一服もつたな! おのれ!

キミ サイダーだけど、炭酸は苦手だった? あとね、ゲップも出るよ、そのうち。さい、だー!?

鹿の子 （くんくん）どうやら毒は入っていないようだな。  
ゆかり ずつと気になってたんだけど、そもそもさ、あんたら一体何者なのよ? さつ

桜 きの化け物は何? ききたいこと山のようにあるんですけどお!  
ま、まあ、納得はいかぬが世話になったようだしな。そんなに知りたければ教えてやろう。聞いて驚くなよ。我こそは、道明寺流言葉祓い宗家・道明寺桜

茜 じゃ。  
茜・ゆかり・キミ （ぼかーん）……。

桜 何を大口開けてぼさつと立っておる? ここは、「おみそれいたしましたー!」とか言つて、ひれ伏すところだぞ!

キミ （土下座）おみそれいたしましたー!  
ゆかり 意味わかってやつてる?

キミ なんか楽しそうだから勢いでやつてみた。  
馬鹿にしておるのか貴様ら!?

鹿の子 ま、まあ待て桜。ここまでの展開から推理するに、どうやらまた、我々の生まれた世界とは違うところに出でしまったようだ。服装やら道具やら、あまりに違いすぎる。

桜 え、そうなのか? じゃあ何か、お主ら、本当に知らないの? 言葉祓い師。

茜・ゆかり・キミ しらなーい。

桜 巻き込んでしまったのは私の方じゃ。では、少し丁寧に話るとしよう。  
鹿の子 そもそも古来より言葉というものは、単なるコミュニケーションツールではな

キミ いきなり外来語きたあー!  
鹿の子 伊達に長く生きてるわけではないからの。

茜 そもそもこのトナカイくんは何? 君たち、もしかして北欧生まれ?  
ゆかり クリスマスマまだ早いでしょ!

鹿の子 トナカイじゃないです! 神獣ですう! こう見えても、神の使いなんです! 桜のお目付役です。

桜 紹介が遅れてすまなかつたな。鹿の子は私の使い魔だ。てか、主人を差し置いてお前が語るな! つまりだ、言葉とは、それ自体が強い力を持つておるの

茜 じゃ。強い想いを込められた強力な言葉は、やがて、それ自身が意思を持ち、かりその肉体を得て動き出すようになる。それが邪悪なものであればあるほど、強大な力を持つてな。

桜 それが、さつき私たちを襲った化け物つてこと?  
その通りじゃ。

キミ わかつたあ! じゃ、せいづらをやつつけるのが、言葉祓い師なんだ!  
ゆかり そのぐらい、普通に聞いてりや誰でもわかるのよ。

茜 ……。  
まあ、そんなところだ。我らは、逃げたヤツを追わねばならぬ。

桜 また怪我するかも知れないの!? もしかしら、死んじやうかもしれないだよ。それでも、行かなくちゃいけないの!?

茜 それが言葉祓い師の、道明寺の家に生まれた者の宿命じゃ。  
ちよつと待って! （慌てて付箋紙に何か書き、桜の体のどつか取れにくい所に貼る）

桜 何の真似だ? てか、ご飯粒汚いからよせと言うに!  
違うって! 付箋だよ。貼つて、剥がして、また貼れる。

茜 おお! これは一体どういうからくりなのだ!?

桜 お守り。だから、負けないでね、絶対。約束だぞ、桜。  
お主に言われんでもな。

茜 やり直せるよね? たとえ間違えたとしても、剥がして、また新しいの貼ること、できるよね?

キミ ……またヤツが現れぬとも限らぬ。くれぐれも気をつけるのだぞ。来い、鹿の子。

鹿の子 （桜の後ろにちよこんと座り、刀の鞘をひつつかんでいる）来い、鹿の子。しびれるうー! いいよねえ、その鬼気迫る雰囲気…。

茜 （のんきに座つてお茶を振る舞われている）すまん、私はこつちだ。こら、離さんか!

キミ せっかく来たんだし、もうちよつとゆつくりしていきなつて! この刀、本物? ちよつと見してよお! あ、あれ? 抜けないぞ、こいつ…!

茜 ……

ゆかり あんたは何バカなことやってんのよ!?

桜 道明寺家に代々伝わる宝刀・煉切だ。道明寺の言葉祓い師にしか扱えぬわ。

キミ キミだつてさっきの見たでしょ!遊びじゃないんだからね。

夕子 その通り!祭りは神事。神聖な儀式。遊びなんかじゃなくてよ!  
八ッ橋先生!?!

### 式 そして別れ...

振り返るとそこに、八ッ橋夕子先生。秋祭り設定だけど、浴衣に団扇とかでいいかあ。あと、頭にお面斜めがけ。他、お祭り気分満載の上に、八ッ橋をくわえている。

鹿の子 また変なの来たぞ...

夕子 おまけに学校行事ともなれば、教育の一環なのよ。桃山さん、遊び気分で軽はずみなことを言うのはおよしなさい。言葉は慎重に選んで。「八ッ橋を叩くと割れる」よ。

ゆかり たとえになつてねーし。

夕子 こんな逸話があります。たとえ一枚の八ッ橋はもろくとも、三枚束ねれば、ほら、この通り!(ぱりん)

キミ 割れたよ。

桜 おおー、それは、毛利元就の「三本の矢」のたとえだな!

夕子 わかる!?それよそれ!

ゆかり なぜそこで話が合う?

夕子 あら、でも君、うちの生徒じゃないわね。お嬢ちゃん、どつから来たの?あーでも、まだ準備中なのよねー。

茜 あの、先生、その人は、近所の子供とかじゃなくて...

夕子 そのファッションからして、相当楽しみに来てくれた所申し訳ないんだけどお、もうちよつとしたら、また来てくれるかなあ。おっけー?で、あんたたちは、いつまでも何やってんのよ!?

ゆかり だから、八ッ橋先生がおっしゃったように、準備中、ですけど...?

夕子 んなことあ端つからわかってんの!大人しく待つてるこつちの身にもなれつーの!待てど暮らせど、お呼びがかからないから、こつちから出向いてきたんじゃないの!

茜 それが、まあ、途中色々ありまして...

夕子 途中経過はさておき、私は今現在の進行状況を教えろって言うてるのよ!

ゆかり だから、ここがこうでこうなつて...

夕子 へえー...、あ、そうなの...

以下の台詞は、ゆかりたちが夕子に説明して回っている間に、舞台前面で展開

される。

鹿の子 桜、気づいたか?

桜 ああ、あの娘の心には、深い闇が潜んでおるようじゃ。

鹿の子 よいのか?

夕子 それは、あの娘の問題だ。どうであろうと、我々のすることは変わらぬ。  
桜 (どうやら視察は終わつたらしい) んで、肝心の、じゃなくてあと一人、御手洗はどうしたのよ!?

茜 家の手伝いが忙しいつて、だんご置いて、帰りましたー。

夕子 帰つた!?ま、まあ落ち着きましょう、だんごが届いているのならばとりあえずはよし。て、なわけがないでしょ、行事なんだから。勝手に帰るつてどゆこと!?でもその前に、そのだんごはどこなのよ!?

キミ (指さす) だんごなら、ほら、そこに。まだ食べてないよ。

夕子 当たり前でしょ!あんたらのおやつじゃないんだから!お、お客様のものなんですからね!

ゆかり あーこれー、団子から預かりもん。夕子につて。(請求書を差し出しつつ)ほい。

夕子 (見る) はあ!?あんにやる、私の分サービスしとけつてあれほど言つたのに、何で数びつたり請求してくるのよ!?(慌てて駆け出す)

茜 どこ行くんです?

夕子 決まつてんでしょ!電話!ちよつと呼び出して文句言つてやんのよ!(立ち止まり)勝手に食べんじやないわよ。売り物なんだからね!

夕子、走り去る。

ゆかり あーあ、一番お祭り気分なのは誰だよ...?

キミ でもさ、「食べるな」と言われると、余計に食べたくなるのが乙女心というものでございまして...。あ、桜ちゃんもおだんご食べる?

鹿の子 桜、匂うぞ!近い!

桜 よすのじや!

キミが、団子の残したコンテナBOXの蓋を開けた途端、雷鳴。にわかには薄暗くなり、例の「バカ」が暗がりから再び姿を現すのでした。

バカ うわあ、また出たあ...!!

バカ 驚いたな。あんた、まだこんな所にいたのかい。バカ。

バカ ...当然じゃ。貴様を斬るのが、私の使命だからな。逃しはせぬ。バカ。お前みたいな小娘に俺が斬れるかつての。

茜 桜...

大丈夫だ。お前たちは下がっている。鹿の子、準備は良いな?

鹿の子 とーぜん。

桜 ならば、いざ、尋常に勝負！

バカ パーカ。あいにくこちとら、最初っからお前と勝負するつもりなんざねえんだよ！

構える桜。くるりと背を向け、茜たちに向かい駆け寄るバカ。

キミ どうしよ!?またこっち来るよお！

茜 やっぱり、そうなんだ…。

桜 (辛うじてバカと茜たちの間に割って入る) 何をしておる!?早く逃げんか！

バカ 邪魔すんじゃねーよ、パーカ！

ゆかり ここは、専門家にまかせて、お前たちは早く！

鹿の子 ダメ。そんなことできない。だってあれは、あいつは私の…！

茜 今お前がそんなこと気にしてどうなる!?いいからさっさと行け！

バカ どうしたい、勇ましいお嬢ちゃんよ、押されてるんじゃないのかい?そんなんで、俺に勝てるか。パーカ！

茜 昨日の夜、「バカ」ってでっかく書いた私の張り紙、油性ペンの筈なのにいつの間にかキレイさっぱり消えてた。桜の言った通り、言葉が本人の意思を超えて勝手に動き出すなら、だとしたらあいつは…。あいつは私の…! そうなんですよ…?

ゆかり こんな時に、何突拍子もないカミングアウトしちゃってんの!?いいから逃げるわよ!ほら!

茜 だってあいつは私。待ちぼうけ食らって暗い教室に一人取り残された私の恨み。私の涙。だから、ごめんゆかり、キミ!あんなたちだけでも逃げてよ!

キミ それってもしかして、狙われてんの私らってことですかあー!?

バカ 今のお前の安っぽい感傷なんて、どうだっていいんだよ、パーカ。

桜 その通りだ。ひとたび実体化したならば、もはやこれはお前の心などではない。倒すしかないのだ。あとは私に任せろ。これは、私の闘いだ!

茜 そんなことできないよ!…あれ、待てよ。違う。今思い出した。確かにあの時、来ないみんなを恨んで、怒りを込めて書き殴った。その時の私の台詞…。

だしたら…。

茜 コンテナBOXに駆け寄り、中から中華まんほどもある(もつとでかくてもよい)でかいだんごを引っ張り出し、高々と天に掲げる(なるべく高い位置。机の上に仁王立ちとか)。

茜 御手洗名物・超特大月見だんご。表面には、うさぎ模様のリアルな焼き印つき。「お月様なんて大つきらいどわあー!」あんたのほんとの狙いはこれなんじゃないの!?

バカ (見上げる) おおおおおつ!

茜 御手洗さんごめんなさい!許して!

茜の手を離れただんごが放物線を描いて宙を舞う。目で追うバカ。ぼとり。そこに一瞬の硬直が。

鹿の子 桜!

桜 わかっておるわ。唸れ、我が愛刀・煉切!道明寺流奥義・〇〇〇〇剣!(〇〇〇〇斬でも何でもいよいよ。技名公募中。五輪公式エンブレムかいっ!)

バカ おのれ、ぬかったわ!よくもやってくれたな、パーカ!

桜 浄化!

バカの身体が炎に包まれ、最後、ロイミュード(仮面ライダードライブ)的に「バカ」の文字が宙を漂い、そして弾けて消える(といいなあ。まあ無理だな。とりあえず文字だけ残して本体消すくらいできないかなあ)。暗雲たれこめていたのが晴れ、次第に明るさを取り戻してゆく。

キミ 終わっ、たの…?

ゆかり 怖くてまともに見らんなかったけど、なんか、そうみたい…。

茜 うん、終わったよ。あいつも、私の重暗い心も、全部、桜が薙ぎ払ってくれた。

キミ 助かったあ…!

茜 二人ともほんとごめん!私のせいでこんなことになっちゃって…。ごめんなさい!

ゆかり ま、まあ、それについてはこっちにも反省すべき点あるし、みんな無事だったし…。

キミ てへ。

茜 みんな、桜のおかげだ…。

桜 何を言う?礼を言うのは私の方じゃ。茜がおらねば、今日の勝利はなかった。ご助力かたじけない(深々と頭を下げる)。

茜 それ、私のお守り…。

手を見せる桜。茜が貼ったお守りの付箋紙が、はらりと地に落ちる。慌てて拾う茜。見上げる茜の前で、桜の姿はまばゆい光に包まれて。たぶんこの辺からイントロ。

茜 もう、お別れなの…?

茜 使命を果たせば、また元の世界に戻る。それが我らの宿命じゃ。

桜 まだ会ったばかりじゃない…!お祭りだってこれからの…!

茜 祭りか…。あれは良いのお。私の国にも盛大な祭りがあっての。見せてやり

たいものじゃ。

**茜** お祭りなんだから、ゆっくり遊んでいきなよ！おだんご食べていきなよ！桜の知らない、面白い道具だつて、まだまだたくさんあるんだからね…！

**鹿の子** (どうやら落ちただんごを拾った扱い)だんごなら、ほれ、この通りここに。  
**桜** あー、鹿の子お前、それ落ちたやつだからな！てか、私にも半分よこさんかい！

**キミ** 元気で、ね。

**ゆかり** また遊びに来いよ！あ、でもさつきみたいのはもう勘弁な！

**桜** うむ。お主たちにも、世話になった。そして茜…。

**茜** そんなあ、行かないでよ、桜…。

**桜** わかったであろう。放たれた言葉は時に、消える事なく時空にとどまり続け、拡散することもある。本人の意識とは無関係にだ。その事、忘れるでないぞ。では、さらばじゃ！

**茜** 桜あ！

桜と鹿の子を包む光に向かって懸命に手を伸ばす茜。けれどその願いも虚しく、桜と鹿の子、光の中に消えてゆく。そして、光が消えた後には、桜と鹿の子の姿はない。

暗転

## 結

以下のシーンは、エンディング曲の流れる中、わりかし断片的に挿入される感じ。

祭りの後、重い足取りで片付け中の茜、ゆかり、キミ。団子もいる。

**団子** そつかあ、私ที่บ้านで爆睡してる間に、そんなことがあったんだあ…。

**ゆかり** てか団子あんた、仕事片付いたらすぐ来るって言ったでしょうが！

**キミ** ほらあ、そんなに怒らない。またおかしなことになるかもよー。

**団子** でもさ、うちの超特大月見だんごが、そんなところで役に立つなんて、なんかいいよね。母ちゃんにメールしとことと。てか、写メとかないの？私も会つてみたかったな、その、桜つて子。

**キミ** ちよつと、やめなよ…！茜いるんだから…。

**団子** あ、ごめん…！

**茜** (ぐすん)桜…。

**ゆかり** ほらあ！

**桜** 私に何か用かの？

**キミ** え…？

振り向くとそこに桜。いつの間にか机上にちよこんと正座して、お茶をすすつている。もちろん鹿の子もいる。

桜、あなた…！

**茜** よ、よ茜…。

**鹿の子** 久しぶりじゃな、と言うほど久しぶりでもない、か…。

**桜** 時にこれは何の道具かのお？形状からして、こう何かを挟むものかしら…？  
**茜** 何やってんの!?それホチキス！指なんか挟んだら怪我するよ！あと、そこ、机！座るとこじゃないって！

**桜** そおなのか…？てか、突つ込むところ違つてはおらぬか？「何でここに!?!」とか、「また会えて嬉しい!?!」とか、そつちが先ではないのか!?!

**茜** 意地悪。下らないボケかまして、それ、私に言わすつもり…？

**鹿の子** …あの時な、お主の恨み書きからあのバカ者が生まれた時、同時に、後悔の念と、救いを求める声が聞こえた気がした。それが、我らをここに呼び寄せたのだと今は信じている。だから今度も、きつと、誰かの強い想いがあつたのではないか、私がここにいるということはな。

**茜** へえ、そつか…。そなんだ…。

**鹿の子** 不思議なことに、ここには、放ち手の意思を超えた奇つ怪な言葉が、無限増殖を繰り返しているように感じる。ならば、我らの力がまた必要になることもあろうよ。

**茜** なので、しばらくここにとどまることにした。よろしくな、茜。

**桜** うん、こちらこそ…。おかえり、桜！

桜に抱きつく茜。慌てて逃げる桜。一瞬見せるその背に、でっかい張り紙「桜に、また、会いたい」の文字。逃げる桜。追う茜。音楽、更に大きく。で、次に暗転です。

暗転